

現場を変える！ 効果的な感染症検査報告

感染症検査の結果報告は、ありふれた日常業務の1つです。しかし、“検査の目的”、“緊急性”、“受け手の知識”に留意することで検査結果の解釈や意思決定が変わり、その後の現場対応に大きな影響を生じうるのは意外と見過ごされています。

今回の特集は、感染症診療・感染対策における感染症検査の位置付けを理解して、臨床医やICTの意思決定を変えるようなアプローチを考えるきっかけとして利用していただくことを目的にしています。

まず、感染症専門医の視点からみた入院・外来における感染症検査の使い方・考え方、臨床検査技師の視点からみたGram染色・質量分析を利用した効果的な結果報告についてご解説いただきました。また、緊急性が高いpanic value、感染対策における感染症検査の使い方についてもご紹介いただいています。いずれも現場目線でのメッセージに溢れており、よりよいコミュニケーションを築く一助としていただければ幸いです。

関谷紀貴

(がん・感染症センター都立駒込病院感染制御科・臨床検査科)